



ふだんのくらしの しあわせ

社会福祉協議会
の提案!



福祉教育ってなに？

- ✓ 福祉教育は「ふだんのくらしのしあわせ」をつくるための学びです。
- ✓ 地域で誰もが安心して暮らすために、どんな工夫や助け合いが必要なのかを考えます。
- ✓ 日常生活の中で起きている困りごとに気づき、それがどんな福祉の問題につながっているのかを理解し、どうすれば解決できるのかをいろいろな人と一緒に考え、実際に行動できる力を育てていきます。
- ✓ 大切なのは、他の人の困りごとを「自分には関係ない」と思うのではなく、「自分にも関わること」として受け止め、身近な問題として考えられるようになることです。
- ✓ 年齢や障害の有無にかかわらず、地域で互いに支え合いながら生活できる「地域共生社会」の実現を目指します。

体験学習でしか学べない？

- ✓ 福祉教育の目的は「大変さを体験すること」ではありません。車椅子体験や高齢者疑似体験といった体験のみの学習では、「大変」「かわいそう」「助けてあげなければ」という気持ちばかりが強く残り、福祉を自分とは関係のないものとして捉えてしまうことがあります。
- ✓ 福祉を“自分ごと”として考えてもらうためには、地域の方(障がい者や高齢者など)と実際に交流し、生活の工夫や思いを知ることが大切です。そうした関わりを通して、助け合いや支え合いの必要性に気づき、理解を深めることができます。
- ✓ 疑似体験を行う場合には、事前の学習として地域の方から普段の暮らしについて聞いたり、一緒に活動したりすることも大切です。



じゃがボラくんからの
メッセージ

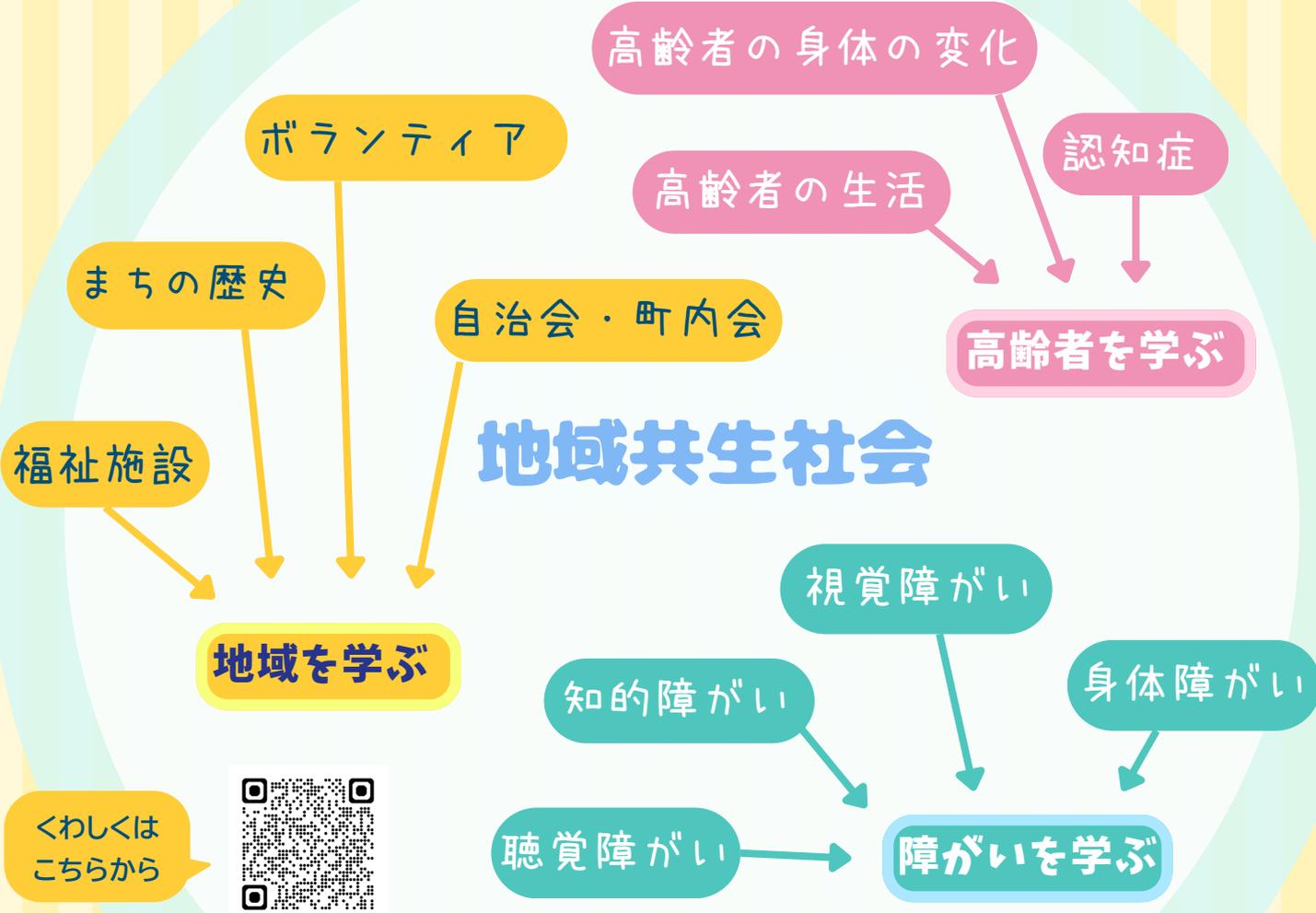


福祉教育は、1回の体験
で終わるものではありません。
地域で暮らす人々の思いや課題を
知り、助け合いについて考えるため
には、年間を通じて継続的に
学ぶことが大切です。

発行：社会福祉法人
横浜市保土ヶ谷区社会福祉協議会
住所：〒240-0001
神奈川県横浜市保土ヶ谷区川辺町5-11 かるがも3階
TEL：045-341-9876 FAX：045-334-5805
HP：http://www.shakyohodogaya.jp/



どんなことを子どもたちに学んで欲しいですか？



地域をテーマに学ぶ

地域の方と触れ合いながら学ぶ、
地域の活動と地域のためにできること



地域を支える活動について、自治会や民生委員さんなど、地域の方から直接お話を聞くことができました。「誰もがふだんのくらしがしあわせに生活できるように」、ふくしの活動を行っているという話が、多くの児童の心に残り、自分にできることがあれば助けになりたいと、社会や地域に目を向けるきっかけになっていました。
(担任の先生の声)

💡 高齢者や障がいを学ぶことは、
地域を学ぶことにもつながります



わらい

- 自分の住んでいる地域を知る。
- 地域ではどのような活動が行われているのか、どのような思いで取り組まれているのかを知る。
- 交流を通して自分自身も地域の一員としてできることに気づき、地域への関心と思いやりを持つ。

プログラム例

小学生

- ・地域の高齢者の話を聞く
- ・地域の施設に訪問する
- ・地域活動に触れる
- ・地域を探検する



中学生

- ・ボランティア体験
 - ・地域の活動へ参加
- ※単発ではなく、複数回の参加を推奨

高齢者をテーマに学ぶ

地域の高齢者と一緒に行えるレクリエーションを児童が企画し、高齢者サロンで実施



地域の高齢者について考えるとともに楽しく関わることができ、子どもたちにとって学びになりました。
(担任の先生の声)

子どもたちと一緒に昼食を食べながらの懇談や子どもたちが作成したレクリエーションへの参加を通して、楽しく、有意義なひと時を過ごすことができました。参加の高齢者からは「本当に楽しかった！」「また一緒にできたらいいね！」と大好評でした。
(協力団体の声)



ねらい

- 年をとることへの理解を深めることで、自分が年をとったときにどんな地域で暮らしたいか考える。
- 高齢者との交流を通して、支援が必要な状態について知り、自分たちにはできないことはないか考える。
- 地域の高齢者に関心と思いやりを持つ。

プログラム例

小学生

- ・地域ケアプラザ等による講話
- ・高齢者施設の見学
- ・高齢者と交流
- ・高齢者疑似体験



中学生

- ・認知症サポーター養成講座
- ・高齢者とできることの考案と実施

障がい者をテーマに学ぶ

障がいのある方や地域の方と一緒にボッチャ体験



グループホームで暮らす利用者がボッチャを通して子どもたちと関わることができ、障害、年齢問わず、一緒に空間で楽しめて良かったです。
(協力施設の声)

「ボッチャ」を初めて知った子どもたちでしたが、すぐにルールを理解し、障がいのある方たちと一緒にボッチャを楽しむことができました。近隣施設にボッチャチームがあることを知り、「もっと一緒にやりたい。」という声も聞かれました。
(担任の先生の声)



ねらい

- 障がいのある方とのより良いコミュニケーションの取り方を考える。
- 共通体験を通して障がいのある方へどのような配慮が必要なのか考える。
- 日常生活のなかで、不便なことや工夫していることを学び、自分にできることを考える

プログラム例

小学生

- ・障がいのある方による講話
- ・手話体験
- ・白杖アイマスク体験
- ・点字体験
- ・ユニバーサルスポーツ体験
- ・車椅子体験

中学生

- ・障がいのある方と交流
- ・障がい施設の見学
- ・障がい施設で職業体験
- ・パラスポーツ体験



実施までのスケジュール



保土ヶ谷区ボランティアセンター
マスコットキャラクター
『じゃがポラくん』

⚠️ 依頼時にご注意ください

- ・実施時期をご相談ください。
- ・内容や日程の都合により、お引き受けできない場合があります。ご了承ください。
- ・内容によっては講師謝金や諸経費が掛かる場合があります(¥5,000程度～)。

前年度末～
年度当初

🎯
ねらい・目標・予算を考える

学校で
考えます



ヒント

学校・地域コーディネーター
にも相談してみましょう

2か月前まで

保土ヶ谷区社会福祉協議会や
地域ケアプラザに相談

保土ヶ谷区社協HPから「福祉教育相談
依頼書」をダウンロードし、メールまたは
FAXでお申込みください。申込み内容に
基づき、講師・協力者の調整を行います。

1か月前

事前打ち合わせ

依頼者、講師、区社協で授業
の目的や当日の流れの確認の
為の打ち合わせを行います。

事前学習

当日

実施

詳しくは...

🔍 保土ヶ谷区社協 福祉教育 🔊 で検索

<https://www.shakyohodogaya.jp/work/kyouiku.html>

実施後の振り返りが大切です。福祉教育
を通して学んだことや感想の共有などを
行い、学びを深めましょう。

★活動の振り返り

★Point ★
疑問に残ったことは自分たちでもっと深く
調べたり、講師に再度聞いてみましょう。

福祉教育をご依頼の先生へ



福祉教育の実施について社協へご相談いただくときは、**子どもたちに「どんなことを伝えたいのか」「どんな
気づきを得てほしいのか」**など、目的やねらいをお話いただけると、とても調整がスムーズです。

一緒に内容を考えながら、福祉を学びませんか？ どうぞお気軽にご相談ください。